

会長挨拶 浜本 義文

## 長崎と天草の 潜伏キリシタンについて



「潜伏キリシタン」とは、キリスト教禁教期の17～19世紀の日本において、社会的には普通に生活しながらひそかにキリスト教由来の信仰を続けようとしたキリシタンのことを学術的に「潜伏キリシタン」と呼びます。俗に言う「かくれキリシタン」は、キリスト教が解禁となった19世紀後半以降も引き続き潜伏キリシタン以来の信仰を続けた人々のことを指します。さて、大航海時代を背景として16世紀半ばに来日した宣教師は、貿易による利潤を目当てとしていた長崎と天草地方の領主をまず改宗させました。「キリシタン大名」と呼ばれた彼らを介して、その領民を集団で改宗させることによって、領内にキリスト教を広めていきました。このようにして、長崎と天草地方は日本における宣教の拠点となり、改宗した民衆の間には「ミゼリコルディア」、および「コンフラリア」など「組」と呼ばれる信仰の共同体がつけられ、それぞれの集落で指導者を中心に信仰が維持、実践されました。16世紀末、豊臣秀吉は日本統一に向けた動きの中でキリスト教を禁じました。17世紀に入り、江戸幕府はキリスト教を黙認したもの、1614年に全国的な禁教令のもとに宣教師を国外へと追放し、教会堂を破壊しました。キリシタン大名など、かつてキリスト教を積極的に取り入れた支配階級は、いち早く棄教して仏教へと改宗し、ひそかに潜入する宣教師や彼らをかくまった信徒には過酷な拷問が加えられて処刑されました。さらに、一般民衆へのキリシタン探索も次第に強化されるようになりました。1637年には「島原、天草一揆」が起こり、2万人を超える百姓らが武装して蜂起しました。一揆勢のほとんどはキリシタンであり、組織的に連携して原城跡に立てこもりましたが、幕府軍によりほぼ全員が殺され、一揆は鎮圧されました。この事件をきっかけとして、江戸幕府は幕府の目を盗んで新たな宣教師が入国することを確実に排除するため、彼らが潜入する可能性のあるポルトガル船の来航を禁止する海禁体制(鎖国)を確立しました。その後、1644年に最後の宣教師が殉教すると、ついに国内に宣教師はいなくなり、キリシタンは宣教師に導かれることなく自分たち自身で信仰を続けていかなければならなくなりました。日本各地には、宣教師との接触が絶たれた後も、厳しい探索をかいぐり、社会的には普通に生活しながら「潜伏」して信仰を続けることを選択した「潜伏キリシタン」が存在しました。長崎と天草地方の潜伏キリシタンは、自分たちの信仰を続けるために、それぞれの集落内で、16世紀以来の共同体を維持し、宣教師に代わって洗礼を授ける「水方」、および教会暦をつかさどる「帳方」など、役職を担当する指導者を中心にキリシタンの信仰にかかわる儀礼、行事などを行いました。さらに自分たちの信仰を实践するため、「平戸の聖地と集落」のようにキリスト教が伝わる以前から山岳仏教信仰の対象であった山やキリシタンの処刑が行われた島を拜んだり、「天草の崎津集落」のように生活、生業に根差した身近なものを信心具として代用したり、「外海の出津集落」のようにマリア像などの聖画像に対してひそかに祈りをささげたり、同じく

「外海の大野集落」のように古来の神社にひそかに自分たちの信仰対象を重ねたりするなど、一見すると日本の伝統的宗教のようにみえる独自の信仰形態はよくみました。さらに、250年もの長期間にわたって、キリシタンが「潜伏」し、信仰を続けることができた背景には、取り締まりを行う幕府の側に本人が信仰を表明しない限り、密告も処罰もしないなどの「黙認」の姿勢も存在しました。このようにして、潜伏キリシタンによる「秘匿」と社会的な「黙認」との絶妙な均衡のもとに、日本の伝統的宗教や一般社会と関わりながら、自分たちの信仰を続ける潜伏キリシタンの伝統がはぐくまれるようになりました。

### 【幹事報告】

- 例会変更 長崎東RC 6/10(金) 18時～  
賀寿会 料亭一力
- 長崎中央RC 6/20(月) 18時30分～  
賀寿会  
& 年度末懇親会  
ガーデンテラス長崎  
ホテル&リゾート
- 長崎南RC 6/8(水) 18時30分～  
あじさい会 料亭二見
- 例会休会 長崎北東RC 6/1(水)
- 長崎南RC 6/29(水)



幹事  
西岡 克之

- 6/15(水)、6/22(水)は、クラブ協議会～年間活動報告～です。各理事、役員の皆様は、発表原稿の準備をお願いいたします。この時の発表原稿は、2021-22年度「活動実績・収支決算報告書」に掲載いたします。
- ポリオワンコイン募金のご協力を宜しくお願いします。来月、ロータリー財団に寄付いたします。
- 例会後、定例理事会です。

今後の  
予定

- 6月1日(水) 休会
- 6月8日(水) 各理事・委員会引継ぎ
- 6月15日(水) クラブ協議会

### ニコニコBOX

浜本: 石橋会友、鬼塚会友、本日の地区研修・協議会報告、宜しくお願い致します。

西岡: 皆様、第4コーナーを回り最後の直線に入りました。頑張ります。御支援を、よろしくお願い致します。

石橋: 今日は4月24日の地区研修の報告の日です。地区研修から報告まで1ヶ月も経ってしまい、申し訳ありません。よろしくお願いします。

伊藤: 本日もよろしくお願いします。

岩永(信): コロナ診療があたたく、長く潜伏ロータリアンになっていましたが、ようやく普通のロータリアンになってきました。

大坪: 本日の例会、楽しみたいです。

岡本: 5/18(水) 傘寿のお祝いを頂き、ありがとうございます。今後共ご指導の程、宜しくお願い致します。

辻村: 本日の例会、楽しみましょう。

西村: 皆様こんにちは。昼例会に久しぶりに参加致しました。レアな西村を今後共よろしくお願いします。今後はレア感を出さないようにしていきます！

吉田: 本日もよろしくお願いします。



ニコニコ発表  
西村会友

小計: 10名/¥27,000 累計: 362名/¥981,200



## 地区研修・協議会報告

会長エレクト・次年度幹事  
次年度理事 / 委員長・ガバナー補佐エレクト

1、石橋会長エレクト 国際ロータリー第2740地区 クラブ管理運営委員会報告。方針(野田初憲委員長(神崎RC))が発表されました。ジュニファー・ジョーンズ会長エレクトは、2022-2023年度の会長テーマ「イマジン ロータリー」を発表されました。ロータリーには「不思議な力」があり、それによって救われる、又、それを大きくするためには「多様性」「公平性」「開放性」を踏まえた会員の積極的参加が必要であります。しかしながら、世界的なコロナ禍の中、ロータリー活動においても今までのような活動が出来ない状況が続いております。これからもこのような事が起きる可能性があるのだという常識の基に、未来を見据えた持続可能なロータリー活動・運営を考えていかなければなりません。このため、ロータリーは今、革新性と柔軟性を持ったクラブ運営が求められています。創意工夫を凝らした会合の議題とプロジェクトを企画し、充実したロータリーライフが送れるような委員会活動を行います。また、多様化したニーズへの対応や幅広いスキル・知識を結集するため、女性や若年層を含めた会員増強の取組みについても、引き続き重要課題として他委員会と連携し、取り組んで参ります。ロータリークラブの原点である「The 4-way Test」… 1. 真実かどうか、2. みんなに公平か、3. 好意と友情を深めるか、4. みんなのためになるかどうか、を活動における不変の羅針盤とし、ぶれない管理運営に努めて参ります。私は「リーダーシップとフォロワーシップの違いがわかりますか？」と質問されました。「申し訳ありません、わかりません」とお答えしました。リーダーシップはよく聞く言葉ですが、「フォロワーシップ」は初めて聞く言葉でした。私の前にお2人の方に「会社でのリーダー(シップ)とロータリーでのリーダー(シップ)は違うと思いますか？」という質問が投げかけられました。約340名もおられる中で、何となく、次に私に質問が来そうな予感がしました。それは前方に座っていたこと、女性であることで…。私にも同じ質問かと思いきや、「それでは質問を変えて聞いてみましょう」と言われ、先程の質問だったのです。答え

られない私に、可哀想に思われたのか、ではもう1度「会社とロータリーではリーダーは違いますか？」という質問に変わりました。会社とロータリーでのリーダーシップは違うと思っていましたが、その違いの意味を咄嗟に答えられず、「それぞれの目的が違うから」と答えました。ロータリークラブは、権限をもったトップが指示、命令するものではないということについて理解しました。研修会場に約340名の会員の皆様が出席されていましたが、女性会員は10%はいないような感じでした。千葉パストガバナーの基調講演で印象に残っていた言葉があります。「佐世保は米軍基地があり、街中で外国人をよく見かけるが、誰もふり返って見ない。(珍しくないということ?)でも自分が住む諫早で外国人が歩いていると、誰でもふり返る。」こういうことと同じで、女性会員が30%以上いると、女性というのが意識されない。そのような意味で、ロータリーが目標としている。女性だから、女性としてという考え以前に、人として考える、意見を述べる。そのような環境をロータリーが目標としているのだと思います。2022-2023年度の会長テーマ「イマジン ロータリー」を基礎にしたクラブ管理運営委員会の活動方針でした。

2、鬼塚次年度幹事 4月24日(日)、ガーデンテラス佐賀ホテル&マリトピアで開催された地区研修に参加してきました。参加者は、石橋会長エレクト・辻村次期ガバナー補佐・西岡社会奉仕次期委員長・南里会員増強次期委員長・早崎青少年次期委員長の6名です。上村ガバナーエレクトの点鐘により開会し、ガバナー挨拶・次年度地区方針・基調講演と進行し、各部会の分科会へ分かれての研修となりました。私は南里会友と会員増強・公共イメージ分科会へ出席。公共イメージ分科会の内容について報告します。今期も地区公共イメージ委員を務めさせて頂いておりますが、今期11月14日に開催された公共イメージセミナーの内容とほぼ同じ説明がありました。2022-23年度、公共イメージ地区活動方針は、公共イメージがロータリアン・ローターアクトに不可欠な目標であることを広く認識して頂く。具体的には、1. 第2740地区公式WEBサイトの活用を促進する…昨年度リニューアルした公式WEBサイトの活用を通じ、地域内外への情報発信を行う/各クラブでの奉仕活動の実例集の登録を行う/各委員会で実施された研修・セミナー



等の資料提供。2. マイロータリーのコンテンツであるブランドリソースセンターとロータリーショーケースの活用…各種ガイドラインやテンプレート、ロゴ、写真・動画などが提供されています。奉仕活動の投稿にも協力してください。3. 身近な広報の実践…会社の待合、休憩スペース、応接室等にロータリーの友や、ロータリー関連書籍を置く／例会以外でもロータリーバッジを可能な限り付けてもらう。

**3、南里次年度会員増強理事** 会員増強・公共イメージ部会の分科会は、カウンセラー：諫早北RCの千葉パストガバナー、リーダー：鹿島RCの藤永次年度会員増強委員長、リーダー：雲仙RCの原田次年度公共イメージ委員長の3名の方の進行によるお話でした。始めに会員増強の現状の報告がありました。

【2017年度】57クラブ…2236名

【2018年度】57クラブ…2200名(▲36名)

【2019年度】56クラブ(▲1クラブ)…2110名(▲90名)

【2020年度】56クラブ…2057名(▲53名)

【2021年度】56クラブ…2066名(年度開始時)

→2100名(1月現在)

ということで、直近では今期に限り前年比43名増ですが、2017年度の5年前からと比較いたしますと約130名減ということで、激減という表現をされるほどの現状です。ちなみに、2021年度の2740地区の第1グループから第10グループまでの平均増強数は約4名増で、我々が北東ロータリークラブ所属の第9グループは1名増ということでした。この結果は、最下位が第3グループ(有田、武雄、鹿島、嬉野、大町、太良)の2名減、第8グループ(諫早、諫早北、諫早西、諫早多良見、諫早南)の増減なしに次いで、下から3番目の結果でした。具体的方針としましては、1. 会員増強は、自分のクラブがロータリーの目的に沿って活動計画を実現する為に、何名クラブに迎えるかを議論することが大切です。地域をリードし、地域の人々に感謝されるクラブになると、会員は生きがいを感じ、クラブに魅力を見つけ、新しい仲間をロータリーに迎えることでしょう。2. 来期は女性初のRI会長が誕生します。女性だから選ばれたのではなく、会長にふさわしい資格を持っているからでしょう。女性が入りやすいロータリークラブ、

居心地のいい、会員への気配りがある。その為にはクラブのリーダーが人間的に成長されることが望めます。ジェニファー・ジョーンズ次期会長は「大切なのは会員にとっての快適さと会員への配慮です」と述べています…ということでした。以上の方針のもと分科会が進行していきました。千葉パストガバナーご自身でもおっしゃってましたが、普段は厳しい言い方をしますが、会員増強に関しては、昨今、人口減少が加速するなか、これくらいの減少数で留まっているのは評価していいのではとのことでした。このような現状で増強は難しい。むしろ、会友の退会防止が大切なことで、なぜ退会するのか、ご自身の会社が経営難等は仕方がないとしても、それ以外の理由での退会となると、そこを突き詰めて問題解決していくことが先決では、ともおっしゃってました。その部分でいくと、我々が北東ロータリークラブでも、現在コロナウイルス感染の影響で長期間の欠席を余儀なくされている会友の方も数名いらっしゃいます。私個人的にもこのような立場なので、お声かけをとも思っておりますが、逆に敷蛇にもなりかねないと思い、気にはなりつつも静観している状況です。かたや、この意見に対して藤永次年度会員増強委員長は正反対の意見で、退会防止よりも増強が大切と強調されていました。その為には、自分を捨てて、他人の利益の為に行動する。自分の心を磨く。みんなのため、人を大事に助け合う。そうなることにより、ロータリーに入りたいと思われることが最優先ではないかとの意見もありました。佐世保北RCの若手の事例で、衛星委員会という委員会を新たに立ち上げ、月に2回ほど平日の19:30集合で会食なしにして経費を抑えて会費年間4万円で、ロータリーを母体とした会員以外の方も参加可能な委員会を発足・運営しているそうです。例会時間を夜にすることと、年間会費を抑えることにより、若い年齢層の方を取り込めるとのことです。現在7名で活動中とのことでした。将来的にはロータリークラブ入会を目的とされているそうですが、活動の内容は不明です。2年後には、北東ロータリー50周年のビッグイベントが控えております。猪股会友の掛け声で始まった、50周年という記念すべき年に会員数70名を目指しての「50-70」運動の努力を継続かつ増強させて、会友の皆様方、会員増強にご協力賜りますようお願い申し上げます。

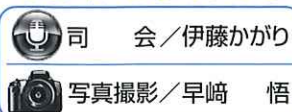


**4、西岡次年度社会奉仕委員長** 奉仕プロジェクトについて。「会員が一致団結して会員基盤の強化が必要だ」と言われた。「カウンセラーで同席された方が新入会員研修を行って下さい。これは、退会防止になります。私のクラブでは、新入会員に対して3時間は、研修を行っていた」旨の講義がありました。当クラブでも実施すべきと感じました。福田パストガバナーは、別の視点から「高齢化で亡くなる会員も増えている。仕方ないが、なおのこと退会防止が必要になる」と言われました。

**5、早崎次年度青少年奉仕委員長** 4/24(日)に国際ロータリー第2740地区 2022-23年度 地区研修・協議会が行われました。私事ですが、前日に夜間工事が入ってまして、あまり寝てない状態だったので、何度も何度も睡魔と闘いながらでしたが、一生懸命参加して参りました。プログラム中盤の分科会では各部会に分かれてミーティングがあり、私も次年度の青少年奉仕委員長として心構えを勉強させて頂きました。青少年奉仕部会では、インターアクト委員会、ローターアクト委員会、国際青少年交換委員会、ライラ委員会と、4つの委員会の委員長様より、それぞれの委員会の役割の説明がありました。インターアクト委員会とは、インターアクトクラブ(県内22の高校)が行うボランティア活動を提唱クラブが支援し、奉仕活動事業を推進させることを活動方針とした委員会だそうです。ローターアクト委員会とは、ローターアクトクラブ(大学生や18歳以上の若い社会人で形成される)の支援、例に挙げますと、ウエスレヤン大学ジャズアンサンブルローターアクトクラブは、演奏活動を行っているそうで、諫早や唐津のロータリークラブでは夜例会や式典の場を提供して演奏会を実施したこともあるそうです。国際青少年交換委員会では、青少年交換事業の実施を目的としています。青少年交換事業とは、世界100ヶ国以上で実施され、15～18歳までの学生が海外に滞在し言語や文化を学びながら、海外の友人を作り、世界市民としての自覚を養うプロ

グラムだそうです。ここ2年間、交換事業は行われていませんが、次年度はアメリカや台湾に5名を派遣予定。アメリカ、台湾、オーストラリアから6名の受入れを予定しているそうです。ライラ委員会は、ロータリアンとインターアクト、ローターアクト、国際青少年交換生が集えるような機会の創出を考え活動していくとの事で、どちらかといえば、これから未来に向けて活動を発展させていく考えの様でした。地区研修・協議会に参加しまして、青少年奉仕と一言で申ししても、様々な形での奉仕活動がある事を知り、大変勉強になりました。私も次年度の青少年奉仕委員長として、北東ロータリークラブが出来る形での青少年奉仕活動を展開していきたいと思います。

**6、辻村ガバナー補佐エレクト** ロータリー地区研修・協議会が、4月24日に佐賀県のガーデンテラス佐賀で開催されました。私は財団委員会の活動方針の講演を拝聴しましたので、そこで発表された内容について、ご報告します。要点は3項目で、まず1項目は「セミナーについての説明」でした。ロータリー財団委員会の事業には、2つのセミナー開催事業があり、1つは毎年11月に開催される「ロータリー財団セミナー」、2つは翌年2月の「補助金管理セミナー」。この2つの事業が、コロナ禍によって2年連続で開催できなかったが、「補助金管理セミナー」は6月に、11月と2月を合わせた形で開催予定ということでした。「財団セミナー」は11月に従来通りに開催予定だとのことでした。2項目は2種類の「補助事業についての説明」でした。1つは大学院レベルの高度の学識の学生に対する奨学金を給付する「グローバル補助金事業」についての説明、2つは「クラブ地区補助金」の活用に関する説明。この2つの事業に対する趣旨の周知と申請手続きの簡素化に努めることが説明されました。3項目は、「資金管理委員会による寄付の勧奨と入会推進の説明」でした。



創立/昭和49年4月30日  
承認/昭和49年5月22日  
例会日/毎週水曜日 12:30～13:30  
例会場/長崎新聞文化ホール「アストピア」

事務局/長崎市目覚町8-11-301  
TEL843-6635/FAX845-9411  
URL <http://nerotary.org/>

#### 本日のメニュー



	全員総数	Home Club 出席数	Home Club 欠席数	Make-up 免除者	修正出席率 出席率
5月11日	38	26	10	2	77.8
5月25日	38	24	10	4	70.6

月間出席率	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
前年度	81.5	79.5	81.8	78.6	74.3	76.3	0	0	81.6	81.1	0	85.3
本年度	76.2	83.8	83.8	78.7	80.6	77.8	80.6	0	78	78.1		